

ISSN 0387—7280

国際日本文学研究集会会議録(第5回)

PROCEEDINGS OF THE 5th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN

(1981)

国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 5th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1981

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, 142

目 次

あいさつ	市 古 貞 次 …………… 3頁
スナップ	…………… 7頁
研究発表	
文学としての出家遁世談	MARGARET CHILDS 11頁
春雨物語——創造性の停滞——	萱 沼 紀 子 …………… 23頁
国際俳句データベース	HELEN ISAACSON … 32頁
俳句と認識論の革新	DONATUS STUART… 38頁
森鷗外・ドイツ留学最後の一年	坂 本 秀 次 …………… 42頁
海外における啄木研究・翻訳の動向 ——英語圏を中心として——	CHIA-NING CHANG… 62頁
『浮雲』の主人公文三は余計者であろうか	LE CHUN KIM ……… 75頁
藤原定家と新古今時代歌論の諸問題	ROBERT BROWER … 86頁
講演	
明治初期における歌論の独訳	BRUNO LEWIN ……… 93頁
記録	……………106頁

あ い さ つ

第5回国際日本文学研究集会の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

日本文学に関する研究会・学会は日本国内に多数ありまして、活発な研究集会が所々で開かれています。外国の方々と一緒に日本文学の様々な問題を考えるという、国際的な研究集会というものはこれまでほとんどありませんでした。そこで私共は1977年に第1回国際日本文学研究集会を当館において開催いたしました。当時、初めての試みでしたし、うまくいくかどうか心配していたのですけれども、幸い皆様方のご協力を得ることができ、また、ご好評をいただきましたので、これに意を強くしまして爾来毎年1回11月に開催しているわけです。今年は第5回にあたりますが、これもひとえにご来会の皆様のご支援、ご協力のたまものと存じまして感謝にたえない次第です。

国文学研究資料館は1972年の5月に設立された大学の共同利用機関ですが、その主な事業をかいつまんで申し上げますと、一つは現存する1868(明治元)年以前の日本文学に関する文献資料を内外にわたって広く調査し、そのテキストをマイクロフィルムに収めて皆様方の研究に役立てようというものです。第2には、日本文学に関する研究文献¹⁾など、あらゆる研究情報を収集整理して、研究者に提供し利用していただくということです。

今日、日本文学の研究は国内に限りまして非常に盛んで、毎年、論文の出る数は6,000点に達していますし、単行本として出版されるものは500点以上にのぼっています。このような研究情報過多の中で、必要な情報を得るといことはなかなか容易なことではありません。研究者のそういう労を省くために国文学研究資料館では、それらの情報を収集し、コンピューターに入力しまして、研究書が、何時どこで、発表、出版されたかを敏速にお知らせできるようにしたいと思っています。さらに昨年から、1868年以前のあらゆ

る日本人の著作物をリストアップしてその伝本の所在や活字化の状況など諸々の書誌情報を集積しコンピューターに入れると共に、「日本古典籍総合目録」を作製するに着手しています。これはまだ緒についたばかりですが、10年後にはおそらく日本の文化、文芸に関心をもつ多くの方々に御利用いただけるようになると考えております。

要するに国文学研究資料館は、文献資料の調査・研究と、研究情報の収集・整備を中心とした日本文学あるいは日本文化の研究センターというべきものでありますが、特に強調したいことは、本館が収集した文献、情報を内外の研究者各位に大いに利用していただき、当館を活発な共同研究の場にしたいということです。

本日、外国からお見えになった方々の中には、研究上いろいろご不便を感じていらっしゃる方もあるかと思いますが、そのような方々に対しても日本文化研究のための一つの窓口として、私共はできる限りご相談に応じ、ご便宜をおはかりしたいと考えておりますので、何なりと御意見をお寄せ下さい。

国際日本文学研究集会は以上のような本館の設立の主旨・目的に添いまして、内外の日本文学研究者のご参集を願い、研究発表と討論によって研究者相互の国際交流を行い、広い視野から日本文学研究の発展をはかることを目的として開いたものです。今回も前回同様大勢の方がご参加下さいましたことに対し、主催者として大変ありがたく、心からお礼申し上げたいと存じます。

なお、私共は毎年11月の中旬にこの研究集会を開きたいと考えておりますが、来年1982年につきましては当館設立後10周年にあたりますので、これを記念して、やや大きな国際集会を催したいと考えております。日程につきましても11月10日から13日まで4日間にわたって行う予定ですので、今回御参加にならぬ方々にもお知らせ下されば幸いです。また1983年には8月31日から9月7日まで国際アジア北アフリカ人文科学会議、略称国際東洋学会議が開かれる予定になっています。これは日本文学も含む東洋学の会議でありま

すから、私共はこの東洋学会議に参加し応分のお手伝いをいたす所存ですの
で、その会議にも多数ご出席いただけるようお願いいたします。

本日は秋晴れのよい天気恵まれました。このような好天の下、ディスカッ
ションや、歓談などを通じて国際交流の実をあげていただくことを私共は期
待しております。またそのことが、日本文学の将来の発展のために非常に大
きな収益となるであろうことを信じておりますので、この2日間を楽しく有
意義にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。

国文学研究資料館長

市 古 貞 次

発 行

昭和57年3月

編集兼発行者

国 文 学 研 究 資 料 館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電 話 (03) 785-7131 (代)